

令和6年度福島県立石川高等学校 第5回学校運営協議会開催記録

■日 時 令和7年2月17日(月) 15:00～16:30

■場 所 石川高等学校 会議室

■参加者 委員

熊井トシエ	福島県立石川高等学校同窓会 ・ 会長
齋藤 一彦	石川町商工会 ・ 会長
宗像 研也	福島県立石川高等学校父母と教師の会 ・ 会長
石沢 泰蔵	石川町立石川中学校 ・ 校長
酒井 修三	石川町立石川小学校 ・ 校長
二瓶 伸一	石川町教育委員会 ・ 教育課長
佐川 正美	石川町教育委員会 ・ 生涯学習課長兼文教福祉複合施設長
水野 憲一	石川町企画商工課 ・ 課長
小川 和英	福島県立石川高等学校 ・ 校長

■参加者 事務局

事務長	教頭	教務主任	進路指導主事
生徒指導主事	地域連携推進主任	県立石川高校魅力化支援員	

1 開会のことば 石川町商工会会長 齋藤一彦 副会長

2 会長あいさつ 学校運営協議会 熊井トシエ 会長

- ・3年次計画の中で、今年度は、「石川高校を知る」という目標で、本会がスタートした。来年度2年目のテーマは、「地域の視点から県立石川高等学校に提案する」である。
- ・令和7年度学校経営・運営ビジョンについて、次年度の本会年次計画を支えるご意見を、委員の皆様の専門的な視点からいただきたい。

3 校長あいさつ及び学校経営・運営ビジョンの説明 県立石川高校 校長 小川和英

第5回学校運営協議会にあたり、御多忙中にも関わらずご出席を賜り誠にありがとうございます。委員の皆様からの温かいご支援のもと、コミュニティスクールとして本校が新たな一歩を踏み出すことができましたことに誠に感謝申し上げます。

まずは、高校入試の志願状況です。前期の志願者が29名とここしばらく続く定員割れを脱出できません

でした。少人数であることをいかし個に手厚く安心して学びを進めることができ、地域からのご協力のもと一人一人が他者と協働しながら多くの気づきを得て成長し、キャリア形成に結び付けていくことができる本校の強みを更に磨き、内外からの評価を高めてまいりたいと考えています。

この度ご提示しました令和7年度学校経営・運営ビジョン(案)も、この思いを反映したものにしています。まず、教育目標です。「志高く真摯に学び続け、社会に貢献できる人材の育成」としました。夢をもち、その実現に向けて努力でき、その夢のどこかに人のために役立ちたいという意思を宿す人材を育てたいという目標を掲げました。その目標をかなえるための教育方針、すなわち方策ですが、少人数であることをいかし個が認められる場の実現、コミュニティスクールであることを最大限にいかし多様な人、機会に触れながら将来に向けた未来像を描くことができる場の実現の二つを教育方針とさせていただき、教育目標の達成に努めていきたいと考えています。

結びになりますが、この第5回は、次年度の本校のビジョンについてご意見をいただくとともに、本校の魅力化に対する次年度への提言をいただくことを主眼にしています。次年度は学校運営協議会の3年計画の2年目であり、「深める」がテーマとなります。本日の提言を受けて、次回の令和7年度第1回協議会で、何を「深め」ていくべきと考えるのかをお示し、3年目のテーマである「変える」に結び付けていきたいと考えております。そのためにも、是非ご忌憚なくご発言いただき多くのアイデアをいただければと考えております。

あらためて、会長さん、副会長さんはじめ、委員の方々から本校の教育の魅力化に向けてこれまで多くの貴重なご意見を賜り、また秋には意見交流会を催していただき、本校の教育活動の活性化にご協力をいただきましたことに、重ねて感謝を申し上げ私からの挨拶とさせていただきます。本日は、よろしく願いいたします。

4 各部会による令和7年度学校経営・運営ビジョン施策の検討

重点目標1 担当 生徒活動部会

(1) 体験学習を重視するための施策について

○ キャリアチャレンジについて

- ・生徒の希望する職業と直結しない方が望ましいのでは。様々な職種を経験できればよい。
- ・アルバイトとは何が違うのか。放課後、報酬をもらえるアルバイトとのバランスが気になる。
- ・学校との教育活動とアルバイトとのずれ。お金につながらないのは教育としても疑問か。
- ・単位や成績がもらえるのは高校生にとっては魅力になる。
- ・長期の活動となると、アルバイトとの違いがなくなってしまうのでは。

○ 探究活動について

- ・長期にわたる探究活動になると、専門性が高まるのではないか。

○ ICTの活用について

・石川町では電子ドリル(iPad 使用) 取り入れた。石川高校ではアプリの活用はあるか。

→ スタディサプリの営業はあった。 ➡ 高校卒業後の進路の多様性より本校では使用が難しいか。

重点目標2 担当 生徒活動部会

- ・自己指導能力の育成をしたい。
- ・深く自己理解し、自ら課題を発見する。自ら目標を設定し、達成することを目指すことがねらい。
- ・自他の個性を尊重、個性がある生徒が多い。
- ・いじめ防止や情報リテラシーの教育に力を入れている。
- ・小規模校の良さを活かし、教員生徒間の良好な関係を身につけ社会性を身に着ける。
- ・相手の立場を考慮することができる指導をしている。
- ・小規模校であっても部活動を活性化したい。

次年度の具体的な施策・事業について

- ・自分の足で一歩踏み出せる力を育成したい。
- ・総探での取り組み(2・3年で4単位)での自ら考え、行動する力
- ・地域の支援をマンパワーとして生徒が成長した例もある。

重点目標3 担当 地域連携部会

- ・施策については特に意見なし
- ・地元企業説明会について、2/5(水)に行われた首長会議にて、来年度は石川町内だけでなく郡内の企業に参加してもらうことが決まった。次年度6月の説明会時には整っていないかもしれないが、1月の説明会には郡内企業説明会となっているだろう。

重点目標4 担当 地域連携部会

- ・施策については特に意見なし
- 具体的施策について
- ・いしかわ WORK&LIFE 教育は本当に良い特色である。だがまだまだ情報発信が足りないと思う。高校魅力化に係る町の予算があるので、教職員の負担が増えないよう、専門機関に依頼し月1〜2回で学校の魅力の発信を依頼できると思うので活用してはどうか。
 - ・先日の成果発表会でキャリアの発表を初めて見たが、とても良かった。なんとか良さを発信して、もっと人数を増やせないか。成果発表会に、中学校の担任の先生、学年主任など、現場の先生に見てもらいたい。そうしないと中学生に現実的に伝わらないと思う。
 - ・キャリアは3年生の1年間は長く、3年次も2事業所ではどうでしょうか。
 - ・キャリア巡回の在り方について、教職員の巡回を隔週にし、行かない巡回週は役場職員が担えると思う。今回の事業所見学のように、バスを利用するときは高校魅力化支援員に相談して欲しい。

・お菓子のくわざわさんから、中谷自治センターとのコラボ商品「いも大福」について、もう発売しないのか等の問い合わせが多数あった、と聞いている。実施後の波及効果について検討してはどうだろうか。また、100周年の「りんどら」も、完成度の高い取り組みが単年で終了することは惜しいと思うとともに、もっと広くPRをしても良い。継続できるような取り組みが一つあることが大事である。他校でも、探究の1つの目玉グループが注目され、新聞で取り上げられることがあるようだ。

5 全体協議

(1) 令和7年度重点施策について

→ 令和7年度第1回学校運営協議会が、5月あるいは、6月に開催されるため、職員会議を経た後、会長決裁とする。

(2) 令和7年度学校運営協議会の開催日について

→ 6月、12月、1月の3回とする。方針と計画にはじまり、12月は当年度の中間評価を行い、1月は次年度計画について話し合う。

(3) 報告

○ 報告1 令和7年度委員構成の追加について

玉川村教育課長 様 平田村教育課長 様 浅川中学校長 様 が委員に加わる。

○ 報告2 学校評議員会との同時開催について

同窓会長 様 石川町商工会会長 様 父母と教師の会会長 様 が委員を務める。

(4) その他

○ 要望事項

・学校運営協議会の開催日に、授業参観ができないか。

→ 事務局で検討する。

6 その他

(1) 令和7年度第1回学校運営評協議会の開催に向けて

・令和6年度末において、委員のご予定を伺いながら、日にちを決定する。

(2) その他

・特になし

7 開会のことば 石川町商工会会長 齋藤一彦 副会長